

令和3年3月25日

(あて先) 熊本市長

団体名 NPO 法人 KP 5000

代表者 職名 代表理事 氏名 原田文子



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和3年3月13日付け指令(地活)第68号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交

付決定※を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」、「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」助成事業 「ホープ・ルーム(心の回復を支える学びの場)」

2 助成事業の実施期間

令和2年4月1日～令和3年3月25日

3 助成事業の内容

障害当事者(ピアカウンセラー)と支援者が協同し、メンタルヘルスに関する研修を開催した。

4 事業の成果

令和2年9月26日に「リカバリー」をテーマに開催し、7名の参加者があった。

5 助成事業の実施状況

(1)事業収支決算書(様式第16号)

(2)事業の経過又は成果を証する書類等

(3)その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項目	金額	内訳
会費	0	
当該事業による収益	3,500	ワークショップ参加費1人500円x7人
当該事業に対する寄附・協賛金	0	
その他の自己資金	0	
当該事業に対する助成金額	23,425	
その他の補助金、助成金等【D】	0	
合計	26,925	

◆支出決算 (事業別)

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	ホープルーム (心の回復を支える学びの場)			
人件費	3,000			3,000
報償費	6,000			6,000
旅費	5,000			5,000
人件費等合計【A】	14,000			14,000
役務費	0			0
使用料・賃借料	8,250			8,250
事務・消耗品費	4,675			4,675
委託費	0			0
合計	26,925			26,925

助成申請上限額 (助成種別：スタートアップ助成)

[事業費 26,925 - 538 控除額【E】] ×10割 = 26,387

※控除額…超過人件費 (人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分) とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	14,000	}	超過人件費【C】※	538
事業費の1/2【B】	13,462		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	538		控除額【E】	538

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1 [ホールルーム（心の回復を支える学びの場）]

人件費	スタッフ人件費@1,000 x 3人 x 1回
報償費	講師者金@3,000 x 2人 x 1回
旅費	講師交通費@1,000 x 2人 x 1回 スタッフ交通費@1,000 x 3人 x 1回
役務費	0
使用料・賃借料	施設使用料@8,250 x 1回
事務・消耗品費	プリンターインク代@4,345、ケース代等@330
委託費	0

事業2 []

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業3 []

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業報告書

実施年度	令和2年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」、「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」助成事業 ホープ・ルーム (心の回復を支える学びの場)
事業期間	令和2年4月1日～ 令和3年3月25日
事業の目的	近年、メンタルヘルスへの関心は高まり続けているが、市民がメンタルヘルスについて学ぶ機会は限られている。また、精神障害を抱えた当事者が一市民として社会に受け入れられ、活躍する機会は未だ少ない現状である。メンタルヘルスについて誰もが学び合える場所を、当事者と共に作り上げることで、メンタルヘルスに関する正しい知識の普及啓発を図ると共に、当事者がいきいきと地域で働き・暮らしていくことができる社会を築いていくことを目的とする。
具体的な 事業内容	<p>障害当事者（ピアカウンセラー）と支援者が協同し、メンタルヘルスに関する研修を開催した。まずは、障害当事者が、本来持っている自己回復能力を高めるリカバリーに関することや、様々な精神保健サービスの紹介などを中心に取り組み、メンタルヘルスに関する市民講座を開催する予定であったが、コロナウイルス感染拡大のため、以後の開催は中止した。</p> <p>事業1 ホープ・ルーム (心の回復を支える学びの場)</p> <p>①日時：9月26日 ②場所：未来会議室 ③講師：ピアサポーター・専門支援機関スタッフ（医療・福祉） ④参加者：7名（当事者・当事者ご家族・支援者等） ⑤広報先：医療機関（主に精神科）・障がい者相談支援センター・障害者支援施設・福祉専門機関・学校・当事者会・家族会等にメール等で案内（一部はチラシを配布）。法人のホームページ・Facebook で市民へ案内した。</p>
実施場所	未来会議室
協力団体	特になし
事業の効果 ・公益性	福祉施設や医療機関等、どこにも所属していない障害者や家族が参加し社会とつながる場所となる。また、市民の精神障害への理解が深まり、メンタルヘルスが向上され、精神疾患発症の予防や差別・偏見の軽減につながる。
次年度以降の 事業展望	リカバリー講座を受講した当事者が主役となって活躍できる機会をつくる（ピアカウンセラーとして、メンタルヘルス講座を開催する等）。また、障害当事者とともに、こころの不調や障害について気軽に相談できる居場所をつくる。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	障害当事者と支援者が一緒になって、障害やメンタルヘルスについて学び・語り合う場所をつくっていく。その居場所を通して、障害者が支えられるだけでなく、誰かを支える市民となって暮らすことのできる街づくりを目指していきたい。